

第 2 回策定委員会の振り返り

NO	項目	主要意見
1	周辺地域も含めて活性化策を検討する	<p>○西山台と大野台のみに限定せず、ニュータウン周辺も含めて考えてはどうか。</p> <p>○活性化の検討については、西山台と大野台のみに限定せずに、周辺地域も含めてアイデアを出して欲しい。</p>
2	自然環境や日常生活の便利さで若年層を吸収できる	<p>○子育て層の住まい選択は、住まいの価格が大きい。新しい宅地は狭いが若年層が購入しやすい価格である。車があれば駅近くでなくても良いし、教育施設やショッピングセンターが近くにあることが求められる。さらに、自治会や近隣における人のつながりが、子育て層にとって住みよさにつながるのではないか。</p> <p>○教育環境や自然環境など、従来の魅力を掘り下げるべきである。農地においてミニ開発が進み、若い世代が入ってきたとしても、失われた自然環境は戻ってこない。空家を活用すべきである。</p>
3	近畿大学医学部附属病院移転に伴うバス交通後退を防ぎたい	<p>○バス交通が中心であるが、近畿大学医学部附属病院がなくなることにより南海バスの便数が減らないようにしたい。</p> <p>○朝の時間帯にシャトル便（直行便）を走らせてはどうか。ニュータウンから泉ヶ丘や金剛駅への直行便があれば時間短縮になる。</p> <p>○買い物弱者を生じないように地区内の循環バスを検討したい。</p>
4	自治会活動の活性化策を指針に盛り込む	<p>○地域の支え合いの中心は自治会であるが、現状では約 60%の加入率に止まっている。自治会活動の活性化策について指針に盛り込むべきである。</p> <p>○まずは、市の職員に参加してもらい、民間企業で働く人の参加につなげていければ良い。</p>
5	地域性とテーマ性を掛け合わせた分かりやすいテーマが人を集める	<p>○テーマ型の活動として、高齢者の居場所や子ども食堂の取組みが盛んになっている。分かりやすいテーマであれば参加が促進され、地域がまとまる。</p> <p>○地域性とテーマ性を上手く掛け合わせる必要がある。</p>
6	人材育成の取組みやモデルケースを見せていく	<p>○地域リーダーを育成していくために、研修の機会や集える場を用意することが求められている。</p> <p>○現役時代は仕事で忙しかったため、地域活動へ参加する準備期間が短く、リーダーが育っていない。</p>
7	課題と将来像、施策や取組みについて	<p>○取組みの優先度や、10年のスパンで誰がやるのかが議論できていない。近畿大学医学部附属病院移転に向けた取組みも示す必要がある。</p> <p>○協働で取り組むために、エリアマネジメントなどの主体づくりの議論がいる。</p>